

各地の大学生がコロナ禍を新たな学びに活用している。未知の感染症の拡大は、グローバル化には負の側面もあり、特に途上国に深刻な影響を与えていることを再認識するきっかけとなった。卒業後の進路選別に生かす動きも出ている。

「最初は『薬学部なのに』と思いました。身近な話の広がりによって、引込まれました」
7月下旬、横浜薬科大学。4年制薬学部の新生を対象にした社会薬学の講義でのひとコマだ。この日のテーマはスマートフォンアプリ「アフリカでは部

コロナ禍が覆う世界

途上国を学ぶ契機に



吉田林講師はオンライン講義でグループワークを重視した(7月下旬、横浜薬科大学)

品の原料の鉱物採掘で武力紛争が起き、性暴力被害者も多数出たこと、被害者の治療に奔走しノー

えてスマホを題材に選んだのは、グローバルな視点で薬学・医療を捉えていくには、コロナ禍やその背景にあるグローバルの仕組みを理解する必要があると考えたため。人数のグループに分けてスマホは学生の必需品で身近な教材と判断した。10回の講義では感染症と環境問題、ワクチンの開発と特許、途上国の医療事情などを題材に、薬学・医療と経済・社会との関係を読み解いた。受講した佐藤美紅さんは「目に見える情報をの

進路選別に生かす動き

分のできることは何か探すようになった」という。薬学部には4年制と6年制の2コースがある。薬剤師の資格取得を目指す6年制と異なり、4年制の学生は研究者や職を志す人が多い。「正解がない課題について考えることで、どんな仕事についても困難に立ち向かい生き抜く力を身につけてほしい」(吉田さん)

派遣に興味を持ったのは、豊島区の日本語教室で出稼ぎに来た外国人やその子どもに日本語を教えた経験がきっかけだ。仕事や賃金を求めて日本に来たものの、暮らしづらさを感じる人は多い。異文化理解の促進には現地の貧困の背景を知り伝えることが必要と考えた。タイはアジアの製造拠点として成長したが、住んでみると貧富の差は大きく、貧しくて学校に行けない子どももいることが分かった。

就活の関連情報はこちらへ 18歳クラス面では就職活動中の大学生の疑問や不安にこたえる記事を掲載しています。関連情報を電子メール nikkel0498@net2.nikkei.co.jpへお寄せください。